



みな
レポ

夢大使紹介②①



若林直子氏

ベイズタワー&ガーデンPR
コンサルタントソーシャル
ピーアール・パートナーズ(株)
一般社団法人社会調査
支援機構チキラボ理事

私の南三陸町とのご縁は、東日本大震災でした。

2011年4月から日本ユニセフ協会東日本大震災緊急支援本部宮城フィールドオフィスの広報官として、南三陸町の支援に入り、乳幼児研修、子どもの心のケア、そして町で唯一の幼稚園であるあさひ幼稚園が津波で流され、再建することになり、そのプロジェクトのために、2013年1月までの間、毎日のように仙台の拠点から南三陸町に通い続けました。

2013年1月に東京に戻った後は、佐藤仁町長（当時）からのご依頼で、毎年成人式でのゲストスピーカーをご紹介したり、東京や関西から友人などに声をかけ、南三陸町へのツアーを企画したりしていて、現在まで南三陸町とのご縁が続いています。

お連れする方皆さんが「すっかり南三陸町に魅了された」と仰る理由は、やはり町の皆さんのあたたかさ、明るさです。震災の時から、皆さん、言葉では言い尽くせないほどのお辛い思いを抱えながらも、「前を向いてみんなで頑張っていこう」という気持ちで進まれている、支援をする私たちのほうが励ましていただいたような気がします。

これからも、ずっと南三陸町に通い続け、震災後からこれだけ素晴らしい街づくりをされてきた町だよ、ということを多くの人に伝え続けていきたいと思っています。

夢大使紹介②②



王嘉暄氏

国立嘉義高級中学
日本語クラス講師

南三陸とのご縁は、2018年から始まりました。

初めて嘉義高校日本語クラスの高校生たちを引率し、2週間の海外研修に訪れたのがその始まりです。現地で触れた人々の温かさや心のぬくもりは、彼らがその後、日本留学を目指して努力を重ねる大きな原動力となりました。

当時一緒に渡航した17人の男子生徒のうち、現在では10人が日本で留学しています。

また、日本各地で留学している先輩たちは、夏休みになると南三陸に集まり、再会を果たしています。時には、自分たちからホームステイのお母さんに会いに戻ってくることもあり、その絆は年々深まってきました。

南三陸は、嘉義高校日本語クラスにとっての「原点」でもあります。毎年、海外研修団に参加することは生徒たちにとって大きな目標となり、その思いは代々の後輩たちへと受け継がれ、夢に向かって進む力を与えています。

私たちにとって南三陸は、何ものにも代えがたい、大切な場所です。

百寿のお祝い 渡邊よしのさん(㊦荒西)



12月22日(月)に百寿を迎えたよしのさんに、町からお祝い金と花束が贈られました。

戸倉地区出身のよしのさんは、若い頃は県外の農家へ働きに出たり、結婚後は家業であるのり問屋のお手伝いをするなど、精力的に働いていたそうです。昨年体調を崩されるまでは、畑仕事を趣味として草刈りでも何でも自分で行うほど、活発に活動されてきました。

ご長寿の秘訣はよく食べよく動くことと言い、好き嫌いなく3食欠かさず食べ、畑仕事や散歩が出来なくなった現在も、洗濯物をたたんだりなどのお手伝いを行っているそうです。

お子さんが4人、お孫さんが7人、ひ孫さんも12人いらっしゃるそうで、ご家族もきつとご長寿を喜んでいることでしょう。

よしのさん、いつまでもお元気で。百寿おめでとうございます。

「南三陸冬の三大祭り」 第1弾!!



12月29日(月)、志津川仮設魚市場を会場に「第35回ラムサール志津川湾おすばで祭り」を開催しました。

南三陸町の年の瀬の一大イベントであるこの祭りは、「酒の肴・つまみ」を意味する「おすばで」をテーマに、年越しやお正月に欠かせないタコ、アワビ、ホタテなどの志津川湾の恵みを受けた特産品が得値で販売されました。

朝7時半という早い時間にもかかわらず、開催時間前から500人ほどが並び、当日の来場者は約6,000人となりました。

冬の三大祭りの牡蠣祭りは2月15日(日)開催(予定)となっています。

志津川ミニバス全国大会出場!



12月26日(金)から28日(日)に行われた「第47回宮城県民体育大会バスケットボール・ジュニアの部兼第57回全国ミニバスケットボール大会宮城県予選」において、男子の部に出場した志津川バスケットボールスポーツ少年団が見事優勝を果たし、全国大会出場を決めました。

決勝では石巻ブラックブルズと対戦し、57対42で勝利しました。1月14日(水)には町役場で優勝報告会が開催さ

れ、選手からは「チーム一丸となって、課題点はその都度話し合い、初戦から良い流れをつかむことができた結果、優勝することができた」と熱い言葉で話してくれました。

町長からは健闘を称える祝辞が述べられ、今後の活躍に期待が寄せられました。